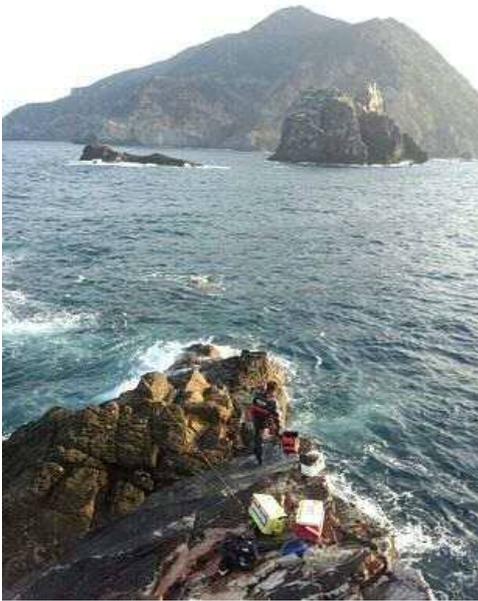


第4投目：増えてきたリリースサイズ



2013.3月某日、奄美磯釣連盟3月大会期間中の釣行です。

この日も風は南西から吹いていますが、3日間の中では一番波が穏やかだと予報の出ている日、メンバー4名で乗った渡船は昨日と同様に与路島へ向けて出港しました。

この日の私は与路島の西側海域の磯を狙っていましたが、予想よりも南西からの風波が大きく、狙いの磯には渡れません。いろいろと悩んだ結果、会長と二人で与路T瀬に渡礁することになりました。

与路T瀬は本町では言わずと知れたA級磯、乗りたかった磯でなくてもクロが釣れる可能性は高く、ワクワクしながら朝一の撒き餌で釣りを開始しました。

潮は下げ潮、船着け側ではユルユルと左に引かれているようです。いつクロが餌を拾いに飛び出してくるか…と期待しながら二人で釣りを続けますが、撒き餌にはチョウチヨウオが数匹集まる程度で、アイゴすら出て来ない時間が

過ぎていきます。期待していた朝マズメは不発…こんなに魚が少ないT瀬も初めての経験です。

時間が過ぎ、ふと見ると与路島との間を流れる下げ潮が多少強くなりました。そしてそれに引かれる潮もほんの少しだけ力を増しました。時計を見ると午前8時30分、とたんに海の中は変化し、いままで見えなかったイスズミやテングハギモドキ、アイゴ達が増えました。魚は海の変化に正直な生き物です。

そこで私はより引かれ潮が狙いやすい釣り座へ移動することに。その場所はサラシが大きく撒き餌に集まる魚は見えませんでした。使えないサラシを避け、タイミングを見て仕掛けを投入し、引かれ潮に差し餌が乗る時にだけアタリが出ます。

ギンユゴイを2匹釣り、その次の1投…軽い重量感で竿に乗った魚に私は『またか…』と思いながらやり取り。しかしギンユゴイのようにすぐに海面に浮かず、幾度か突っ込みます。次の瞬間、『クロだぁ!』と叫んだのは私。会長曰く、まるで初めてクロを釣る人が出す声のようだったとのことです(笑)。

サメの攻撃をかわして取り込んだクロは39.5cm…我がクラブでは40cm以下はリリースと決めているため、渋い状況の中釣り上げた貴重な1枚でしたが、泣く泣く海へ帰しました。しかし、ここ数年このようなサイズがほんとに多くなりました。釣り人なのか?海流の影響なのか?実際のところはわかりませんが、いつまでも奄美でクロ釣りができる環境が残ってほしいものです。

